

研究成果情報	園芸	19	果樹	品種
新技術・情報名	温州みかんの新品種「原温州」の特性		分類	①

1. 成果の内容

1) 技術、情報の内容及び特徴

「杉山温州」の樹体変異品種「原温州」は、果実が偏球形で、11月下旬から12月上旬に採取できる普通温州で、果皮が薄く、じょうのうも非常に薄く食べやすい。また、糖度は高く食味が優れている。

- (1) 樹姿は開張性である。樹勢は普通温州としてはやや弱く、枝の節間はやや短い。葉面積はやや小さく、葉柄が短い。
- (2) 果実は偏球形で果形指数が135程度である。油胞は密に分布し、果面が滑かで薄く、果肉歩合は高く80%程度である。
- (3) 果皮の着色は10月上旬に始まり、12月上旬に完全着色となる。果皮色は濃橙色である。浮皮は軽微である。
- (4) じょうのうの厚さは薄く、0.1mm以下である。また、果肉は柔らかく舌ざわりが良い。
- (5) 果汁中の糖度は11月下旬の採取時には12度を超え、クエン酸は1.1g/100cc前後となる。食味は常温貯蔵後の12月から1月が優れているが、貯蔵における品質の変化が小さく、2月までは高品質が保持できる。

2) 技術、情報の適用効果

「原温州」は早生温州みかんに続いて出荷される普通温州として優れた特性を持ち、従来の「杉山温州」や「南柑20号」に替わる品種として期待できる。

3) 適用範囲

県内温州みかん産地

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

「原温州」は豊産性であるが、隔年結果を防止するため、秋季に予備枝せん定を行う。また、果実が柔らかいので、丁寧に取扱う。

2. 具体的データ

表1 葉の形状 (平成元年)

品種	葉身			1葉の葉柄の	
	長さ	幅	幅/長さ	面積	長さ
	cm	cm		cm ²	cm
原 温州	10.0	4.4	0.44	28	1.7
杉山温州	9.9	4.4	0.44	30	1.9

表2 果実の形状(平成元年)

品種	果 形			果皮	
	縦径	横径	指数	厚さ	
	cm	cm		mm	
原 温州	5.0	6.8	136	2.57	
杉山温州	5.1	6.9	135	3.30	

表3 原温州の果実品質 (平成元年)

品 種	着色	果皮	果肉	じょう	果肉	糖度	可溶性	クエン	甘味
	程度	色	果重	のうの	の	示度	固形物	酸	比
			歩合	厚さ	計		g/100cc	g/100cc	
			g	%	mm				
原 温州									
(原木)	8.6	8.4	119	80	0.09	9.0	12.6	13.85	0.75 18.5
(高接樹-2)	9.7	8.9	130	81	0.10	9.0	12.3	13.66	0.97 14.1
(" -3)	9.7	9.0	121	80	0.08	8.9	12.8	14.07	0.77 18.3
杉山温州	9.4	8.0	118	75	0.13	8.0	10.2	11.37	0.98 11.6

注) ① 高接樹-2: 接木2年目、-3: 接木3年目 ②調査は11月21日

表4 原温州の果実品質の時期別変化 (平成2年)

調査日	着色	浮皮	果肉	糖度	可溶性	クエン	甘味
	程度	程度	果重	計	固形物	酸	比
			歩合	示度		g/100cc	g/100cc
			g	%			
9月5日	0.0	0.0	59	79	8.9	9.85	2.84 3.5
10月5日	0.2	0.0	98	83	10.4	10.85	1.65 6.6
11月6日	7.5	0.0	122	83	12.1	13.15	1.21 10.9
12月5日	9.8	0.0	134	81	12.4	13.53	1.22 11.1
1月8日	10.0	0.7	113	80	12.9	14.20	0.85 16.7
2月3日	10.0	0.2	112	82	12.9	13.90	0.97 14.3
3月5日	10.0	0.8	105	81	13.6	14.79	0.78 18.9
4月10日	10.0	1.0	109	80	13.2	14.07	0.76 18.5

注) ① 1月8日~4月10日は常温貯蔵果実

② 調査場所は八女郡立花町

3. その他特記事項

担当部科室名: 園芸研究所 果樹部 常緑果樹研究室

研究担当者名: 大庭義材、松本和紀、矢羽田第二郎

研究課題名: 高品質カンキツ品種の開発

期 間: 平成2年~3年

予算区分: 経常

既発表論文・資料名等: 平成3年度福岡県農業総合試験場

果樹部関係試験成績書

取りまとめ責任者名: 大庭義材